海外ボーディング・スクール体験談

Drafted by: Intern Manaka Watanabe
Edited by: Commercial Specialist Kazuko Tsurumachi
August 2015

米国大使館商務部の2015年夏のインターン生として一緒に働いてくれたManakaさんが、ご自身の経験を踏まえて、ボーディングスクールについてレポートしてくれました。帰国子女の彼女は、中学生時代にアメリカの大学進学も選択肢として考えていたとの事で、英語をハンディにはしたくないとボーディングスクールへの進学を選択したそうです。英語の下地がある彼女は11月に早々と入学許可証を受け取りましたが、2月頃の合格発表が多いようです。また、入学審査は学校によって異なり、9月に始まる新学期までに英語の補修クラスを受講することを条件に入学が認められる場合もあります。アメリカの公立中学・高校への留学は1年間しか認められていないため、2年以上の留学の場合は私立の中学・高校に留学することとなります。中学・高校への長期留学は、多くの場合、ボーディングスクールに入学することになるでしょう。入学には受験が必要ですが、交換留学と違い、自分に合った環境や学校の選択が出来きるメリットがあります。アメリカのボーディングスクール教育は、大学進学予備校としても高く評価されています。アメリカの中学・高校卒業留学を考える第一歩としてご参考になれば幸いです。

また、アメリカ大使館商務部は、毎年秋に開催される TABS (The Association of Boarding Schools) 主催「 ボーディングスクール・フェア」を後援しています。アメリカ（カナダを含む）から多数の学校が参加するイベントです。ボーディングスクールの最新情報をはじめ、各学校の担当者から直接アドバイスを受ける絶好の機会となります。イベント情報は、米国大使館商務部のウェブサイトで告知しております。中学・高校の留学をお考えの皆様のご来場をお待ちしています。

米国大使館商務部 URL: http://www.buyusa.gov/japan/industry/education/index.asp

＊－＊－＊-＊－＊－＊－＊-＊－＊－＊－＊-＊－＊－＊－＊-＊－＊－＊-＊

入学を決意したきっかけ

高校進学の時期、まだ具体的ではありませんでしたが、もっと英語で勉強したい、自立したい、自分の好きな科目の勉強に集中したいと考えていました。将来は海外の大学への進学も視野に入れ始めていました。両親は、世界に出て色々な人と交流し、文化に触れることによって成長できるだろうと賛成し、安全面での心配が少なく、しっかり面倒を見てくれる全寮制の高校に進学することになりました。私は、「様々な国籍の同世代の友達と一緒に暮らすのはハリーポッターみたい！」と思い、楽しみにしていました。最初は１年間留学の予定でしたが、せっかくこんなに英語で頑張って勉強したし、ようやく慣れた頃だったので、高校を海外で卒業することを決意しました。両親も、学校の徹底した個人へのサポートと、日本や海外の大学進学のカウンセリングをしてくれる環境が整っていたので、応援してくれました。

受験・応募方法

ステップ１：学校のウェブサイトに掲載されているオンラインアプリケーションフォームを記入し、その他に必要な書類と一緒に担当者にメールします。主な必要書類は、過去２年間の成績表、推薦状３通、パスポートのコピーなど。推薦状ですが、海外では生徒の個性や特技を伸ばしてくれるので、得意な科目や好きな科目の先生から１通を書いて頂くことをお勧めします。

ステップ２：１日体験入学に招待され、案内役の同級生と一緒に授業や食事、寮生活を経験します。その際、数学と英語と母国語（日本語）の入試を受け、アドミッション担当者と面接を行います。学校まで行けない場合は、在校中の中学に入試問題が送付され、そこでテストを受けます。近くに卒業生がいる場合は、面接もあります。出来れば、実際に学校を訪問し、雰囲気を体感したほうがよいでしょう。面接では英語の能力に加え、親元を離れた寮生活ができるかどうかの意思の強さを見極める目的があるようです。

ステップ３：多様性を重視しているため、年齢、国籍、性別それぞれ全校生徒の１０％しか受け入れていません。この制限があるので、毎年４００人以上の受験者から約９０名が合格となります。また、補欠合格になる可能性もあり、いつ学校が受け入れてくれるかは、人それぞれです。アプリケーションは、なるべく早く１１月から２月までには出しておきましょう。私は比較的早く、１０月に入学願書を提出し、１１月下旬には合格通知が届きました。始業式１週間前に欠員が出て入学が決まった例もあります。

入学後に驚いた事

入学当初、私が驚いたことは生徒同士そして生徒と教員の絆の強さでした。寝食を共にし授業を受ける学校生活は、友達以上の兄弟のような関係を築きました。寮では、同級生だけでなく、年上や年下の生徒とも一緒に暮らしているので、沢山の姉妹がいるような感覚でした。楽しいときも、つらいときも一緒にいてくれるのは友達です。全寮制の学校生活で築かれた絆は、高校卒業後も世界のどこにいてもつながっています。また、親代わりに面倒を見てくれる先生たちとは家族のような関係で、学校全体が１つの大きなファミリーでした。

授業・教育スタイルの違い

海外に出て痛感したのが、日本との授業スタイルの違いです。ほとんどの授業が１５人以下という少人数制で、ディスカッションベースなので、少しでも疑問に思うことがあれば理解できるまで質問できます。先生方も親身に教えてくれますし、一人ひとりのケアが行き届いていると感じました。個々の意見と個性を尊重する校風から、クリエイティブシンキングが磨かれ、それをディベートやディスカッション、プレゼンテーションで発信する機会が沢山ありました。さらに、海外にいるからこそ大切にしたい日本語の勉強も、日本人の先生にしっかり指導してもらいました。高学年になると私はIB（International Baccalaureate）の資格をとるために幅広い教科の中から自分の好きな科目を選びました。学年主任や進学カウンセラーと定期的に面談があり、また必要な際はいつでも対応してくれます。学校主催の大学訪問ツアーや、学内で開かれる大学説明会にも積極的に参加しました。

一日の授業が終わった後でも、スポーツやアクティビティに参加が義務づけられていましたので、アカデミックな面とのバランスが取れたと思います。夜も勉強時間が設けられ、スタディーホールで先生の監督の元で宿題をするのですが、質問などがあるときは、先生が助けてくれ

るのも寮生活の良いところです。他の学校とも盛んに交流があり、私の場合はテニスのトーナメントで他の全寮制の学校に遠征試合に行きました。スポーツの他に、オーケストラ、コーラス、バンド、美術部など盛りだくさんのアクティビティがあり、毎日とても充実した日々が過ごせます。週末もパーティーが準備されたり、友達と外出したり、学校が小旅行を計画してくれたりもします。週末は色々な国籍のディナーになり、国際的な寮生活ならではの経験ができます。

日本の高校に通っていたら経験できなかったことは沢山ありますが、特に私の人生に影響を与えてくれたのが、ボランティアの経験です。１年目と２年目の夏休みの始めに学校のボランティアグループと引率の先生とで１０日間ほどタジキスタン、ブータンへ行きました。親も学校からのボランティアで、先生方が付いていてくれるなら安心だと言っていました。そのプロジェクトに携わって初めて、今まで知らなかった世界の一部分を肌に感じることができ、自分の知らない世界はまだまだ沢山あると改めて気づきました。ボランティアの経験から、リーダーシップやコミュニケーション能力が鍛えられましたし、留学して良かった、これからも世界を舞台に働きたいと思いました。

入学して得たもの

もともと帰国子女の私ですが、それでもやはりカルチャーショックを受けました。海外生活が初めての生徒、親元を離れた経験のない生徒、英語が片言の生徒、初の相部屋生活、定期的な先生の見回りなど、最初は寮生活を窮屈に感じました。しかし、日本人的視点だけで物事を考えていたらだめだと気づかされました。文化の違いを受け入れ、新しい自分の「常識」ができあがりました。また、寮生活は、かなり勉強します。毎晩夕食の前後にスタディー・ホールといって勉強時間が設けられ、先生方の目もあるので、生徒全員が宿題に打ち込みます。寮生活の中で、限られた時間で大量の宿題をこなす時間の有効利用を学びました。さらに、健康管理やストレスマネジメントなど、自己管理のコツを高校生時代に学んだことは、今のアメリカの大学生活で役立っています。

大学への決意

中学生で海外の大学を視野に入れていた私ですが、大学からいきなり英語で授業を受けるのは大変だろうと想像できました。両親も、高校から英語で基礎を固めて、海外の暮らしに慣れておいたほうが良いと後押ししてくれました。海外の高校に留学した日本人の友達の多くが、帰国子女枠で日本の大学に入学しています。しかし、私は一生懸命英語で勉強をしてきましたし、リベラルアーツで自分の好きな分野を探したいと思ったので、アメリカの大学に進学しました。高校で海外に出たことによって、もっと世界を知りたいと意欲が深まり、チャレンジ精神が養われました。全寮制の高校への進学は将来への投資だと思います。

自己紹介

私は大阪生まれで、日本とアメリカ、スイスを含め人生で９回引っ越しました。大阪、山形、名古屋、アメリカ西海岸と父の仕事の都合で転校を重ね、中学を機に大阪のインターナショナルスクールにちかい学校に通い、高校はスイスの全寮制で学びました。現在は再び西海岸に戻り、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校（UCLA）に通い、国際関係を専攻しています。大学ではグローバル・シブリングという留学生とアメリカ人生徒が交流するプログラムに参加

したり、模擬国連クラブで国内の大学間で行われる会議に携わりました。また、大学のアウトドア・アクティビティーセンターでキャンプのガイドとして働いています。

海外暮らしが長くなると、日本の良さをしみじみと感じます。今の目標は、卒業後は帰国し、日本で働くこと、色々な国の文化に触れる楽しさを知った今、国際的な環境でマーケティングなどのビジネスに携わりたいと思います。

最後に

日本ではまだ全寮制の高校に留学するということが普及していませんが、ボーディングスクールは、勉学のみならず、安全で面倒見の良い環境が整っています。是非多くの日本人生徒に海外へ飛び立って、一生の宝となる経験を積んで欲しいと思います。